

近江八幡教会とヴォーリス

深見 祥弘

奨励者紹介〔ふかみ・よしひろ〕

日本キリスト教団近江八幡教会牧師

しかし、ある枝が折り取られ、野生のオリーブであるあなたが、その代わりに接ぎ木され、根から豊かな養分を受けるようになったからといって、折り取られた枝に対して誇ってはなりません。誇ったところで、あなたが根を支えているのではなく、根があなたを支えているのです。

（ローマの信徒への手紙 11章17―18節）

近江伝道と近江八幡教会の設立

今朝は、私が働きをしております近江八幡教会とウィリアム・メレル・ヴォーリスについてお話いたします。ヴォーリスは、同志社カレッジソングの作詞者でありますし、今出川キャンパスには彼が建築にかかわった建物（アーモスト館、致遠館、啓明館、新島遺品庫）も現存しますので、ご存知の方も多いと思います。

近江の地にプロテスタントの伝道が始められたのは1872～1873年頃で、宣教師のグリーン、ギュリック、デイヴィスらによってでありました。この頃、大阪で勉学中であった彦根の町医者樋口三郎がキリスト教に触れ、彦根に戻った後、「『天道潮原』を学ぶ会」という集会を始めました。そして、八日市で薬舗を営んでいた広瀬又治に伝道したのです。1879年6月4日、新島襄、ギュリック、デイヴィスら宣教師9名、同志社で学んだ金森通倫、海老名弾正、小崎弘道、宮川経輝らの出席のもと、近江で最初のプロテスタント教会、彦根教会が設立されました。さらに翌日6月5日、新島らは須田明忠に按手し、八日市教会が設立されました。

八日市教会の設立式が行われた日、広瀬又治は教会設立の感激をたずさえ、近江八幡の友人野間憲吉を訪ねました。話を聞いた野間憲吉は、翌1880年、自宅で「聖書を学ぶ会」を始めました。これが近江八幡教会のはじまりです。この1880年は、特別な意味をもつ年で、10月28日、アメリカのカンザス州レブンワースでウィリアム・メレル・ヴォーリスが生まれています。またこの年、小崎弘道、植村正久らによって東京YMCAが創立されました。後に、ヴォーリスはこのYMCAの仲介で近江八幡に来ることになります。教会のはじまりとヴォーリスの誕生、そして我が国のYMCAの発足が同じ年であったことは、神のご計画とすることができるとでしょう。

1881年、聖書を学ぶ会に集まる人々が、日本伝道会社の支援を受け、共同座で演説会を行うと、そこには500人を超える人々が集まりました。福音の種まきが始まったのです。その後、困難はありましたが、1888年、家を借りて「八幡基督講義所」を設立し、初めて定住の伝道者を迎えることができました。さらに講義所設立から13年を経た1901年5月、「八幡組合基督教会」の設立へと導かれたのでした。

近江八幡教会とヴォーリス

教会設立から4年後の1905年2月、25歳のヴォーリズがYMCAの仲介で、近江八幡の県立商業学校英語教師として着任しました。ヴォーリズは、近江八幡に教会があることを知らず、自ら伝道しようと来たのであります。

着任後の最初の日曜日、彼は商業学校の英語教師で、八幡教会の信徒であった宮本文次郎につれられて、礼拝に出席しました。そこは教会が間借りをしている教会員の持ち家で、6畳と8畳の2間に、6人の信者が円座になっていました。ヴォーリズは、初めて出席したその日、求められて説教をいたしました。この時、教会は無牧師であったのです。以来、彼は牧師が就任するまでの1年間、礼拝説教を担当いたしました。ヴォーリズはまた、下宿先に商業学校の学生たちを招いて、バイブル・クラスを開き、同年10月に商業学校YMCAを結成し、この学生たちが教会の礼拝にも出席するようになりました。

1906年、大橋五男（かずお）伝道師が就任しました。ヴォーリズ26歳、大橋25歳の時でした。若い二人は協力して学生たちに伝道し、この年19名の学生たちが洗礼を受けました。この学生の中には、自らを「宣教師」と名乗り、商業学校の寄宿舎で伝道する者もいたのですが、このことが学校、新聞、仏教界などで問題視され、ヴォーリズは、就任2年で英語教師を解職されることになったのです。

話は前後しますが、ヴォーリズが近江八幡に来た1905年、教会役員であった西幸次郎は、教会堂建築のために土地を入手しました。講義所設立から17年間、借家や間借りをしてきましたが、教会員たちには自前の土地に教会堂を建てたいという夢が与えられておりました。しかしこの年、教会はまだ無牧師でありましたので、西は牧師の就任を待って、翌年の10月、大橋伝道師就任後に土地の寄付を申し出、教会総会において教会堂の建築が決議されました。同じ月、ヴォーリズは、西にYMCA会館建築の協力を願いました。ヴォーリズは1906年春、体調を崩して一時帰国していましたが、その間にYMCA会館の設計図を作成し、アメリカの友人たちに募金を願って、9月に戻ってきたのです。ヴォーリズ（26歳）の願いを聞いた西（50歳）は、「先日、教会堂建築のために購入した土地を教会に寄付したが、あなたの計画を聞いていたので、大橋先生には敷地の西半分に会堂を建て、東半分はYMCA会館の敷地として貸してあげてほしいと伝えてある」と答えたのでした。こうして教会堂とYMCA会館の建築を、同志社の建築にたずさわった木曾田梶之助に請け負わせ、1907年2月にYMCA会館、9月に教会堂が完成し、献堂式が行われました。

その後、ヴォーリズは、コロラドスプリングス長老教会より近江八幡教会に教会籍を移し、信徒として奉仕をするようになりました。また彼は、YMCA会館を拠点にして教え子たちと一緒に「近江基督教伝道団（近江ミッション・後の近江兄弟社）」を結成し、建築設計、近江療養院、近江セールズ、清友園幼稚園といった働きを展開し、その実りをもって湖東地域だけでなくガリラヤ丸で湖西地域の今津、堅田にも伝道しました。こうした中、近江八幡教会は近江兄弟社と一体化し、牧師は近江兄弟社教務部社員、社員は全員教会信徒という時代がありました。戦後、教会と近江兄弟社は別組織となり、教会は町の教会になりました。しかし、今日でも教会と近江兄弟社とは、親しい関係が続いています。

神のなされる業

先ほど司式者によってローマの信徒への手紙11章17～18節が読まれました。「しかし、ある枝が折られ、野生のオリーブであるあなたが、その代わりに接ぎ木され、根から豊かな養分を受けるようにな

ったからといって、折り取られた枝に対して誇ってはなりません。誇ったところで、あなたが根を支えているのではなく、根があなたを支えているのです」。ヴォーリズは人気があって、近江八幡市内にある彼の建築を見るために、たくさんの人々が訪れます。また、近江八幡教会員の中にもヴォーリズが近江八幡にキリスト教を伝え、教会をつくったと思っている人もいました。先ほどお話ししましたように、ヴォーリズが生まれる以前に宣教師たちや信者の人たちによって近江の地は耕され、御言葉の種まきがなされていました。さらに、芽を出し、根を伸ばし始めた近江八幡教会を、幾多の困難の中、25年にわたり守り育てた信徒や牧師がいました。17節に「折り取られた枝に対して誇ってはなりません」とありますが、信者の中には迫害のために教会を離れていく人もおりましたし、牧師も生活の困難（貧困）のために短い期間で離任していく方々もおりました。

1905年ヴォーリズが来幡し、教会の一員（枝）となりました。接ぎ木されたのです。若い彼は根から養分を吸い上げ、それによって幹も太くなり、枝や根も長く伸びて花を咲かせ、豊かに実をならせるようになりました。しかし、18節「折り取られた枝に対して誇ってはなりません」、「根があなたを支えているのです」とあるように、若いヴォーリズの働きを支えたのは、教会を離れていった信徒や牧師を含めて、宣教師や信仰の先達たちであり、神でありました。伝道をしたという理由で学校を解職された26歳のヴォーリズに、町の誰が土地を売ってくれたり、近江ミッションの事業に協力したりしてくれるでしょうか。それは、町に暮らし、苦難の中でも、教会という根や、その台木を備えた人たちがいたからです。さらに神が、遠くレブンワースにヴォーリズの生まれた時、東京にYMCAをつくり、近江八幡に聖書を学ぶ会をつくって、25年後のために備えをしてくださったのです。そして、すべては神が、近江八幡や近江の人々を救いに導くために計画されたことであると思います。この神の業は、現在も続いていることです。

神はここにおられる皆様のためにも、救いのご計画をたててこれを行ってくださっていることを信じます。

2018年5月9日 今出川水曜チャペル・アワー「奨励」記録